

1 本年度の学校評価をふりかえって

今年度は「ともに語ろう、ともに歩こう」を合い言葉に、豊かな心とたくましさを育む教育活動、学力向上に向けた指導の充実、互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進、地域に開かれた学校運営の 4 つを柱として、学校教育目標の具現化を目指し、教育活動の工夫改善に努めてきた。昨年度に引き続き、共に学ぶ問題解決型の学習を進め、道徳教育を重点に実践する中で、考えを話し思考を深める子どもの姿が様々な教科の場面で見られるようになっていく。今後も保護者や地域の理解と協力を得ながら、教職員の協働体制をさらに強化し、よりよい学校教育活動を進めていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	豊かな心とたくましさを育む教育活動の充実	・互いに心を開いて話し合い、協働して取り組む子どもを目指し教育活動に取り組んだ。体験的な活動や感動体験、道徳教育など、語り合い協力する活動の中で共感的な人間関係づくりを行い、思いやりの心が育ってきている。今後は、「自分にはできる」と感じられる自己有用感を育てる取組に力を入れたい。	B	・自己有用感を感じられるよう、家庭や地域社会と連携しながら個々のよさを認め伸ばす機会をつくり日常の指導に当たるとともに、道徳教育やキャリア教育の工夫改善に努める。	・子どもたちに常に前向きな姿勢が見られる点にたくましさを感じる。 ・自己肯定感を育てるために成功体験や自分により所があると思える活動を進めて欲しい。 ・子ども同士で議論できる道徳の授業が豊かな心を育むのではないかと。
	学力向上に向けた指導の充実	・道徳を窓口にして、問題解決型の学習を継続した。考えを関連付け、比較・検討する双方向の話し合いを重ね、さらに他教科でも考え議論する授業を行うことで、話し合う力の向上と子どもの思考の深まりが見られる。 ・基本的学習習慣の定着と共に、スピーチ、読書等の日常的取組を併せて行った。学習の基盤となる基本的な力を着実に付けている。	A	・主体的・協働的に学ぶ力の向上を目指し、教科等でも問題解決型の学習の日常化を図り、全校で取り組んでいく。 ・基礎的・基本的な力の定着に向け、ノート指導、学び直し、漢字や計算、家庭学習等の継続的な取組を今後も進める。	・学習内容のレベルが高く、指導も丁寧に分かりやすくされている。子どもの学力の高さが見られる。 ・子どもたちが話し合いに意欲的で、相手の意見をよく聞いて考えている。 ・ノートの工夫や読書習慣など、丁寧な指導がなされている。今後も継続して指導をしてほしい。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	・教師や学年の連携や情報共有、チームでの対応、関係機関との連携により、いじめの未然防止や早期発見、早期対応の充実を図った。	B	・「いじめは常に起こり得る」という意識で、子どもの悩みや情報を把握し、いじめ等の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	・定期的な生活アンケートなどで素早く対応し、小さなうちにトラブルを解決していく取組を継続して欲しい。
	互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進	・個々の活躍と互いを認め合う場づくりを各学級や学年で工夫し、子どもが存在感を感じられるようにした。ねんりんピックへの子ども主体的な取組と各県選手団との交流を通し、達成感のある経験ができた。	B	・学級や学年の活動、異学年交流等を通して個々の活躍の場をつくり、個性を発揮して自信と存在感を育むように、全校で取組の工夫を図る。	・仲間を思う心が芽生える指導が出来ている。 ・発表している子どもを他の子どもが見ている様子から、互いを尊重していることが感じられる。
家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携を重視した教育活動の展開	・御所野地区の自然や産業や暮らしの特色を各教科の学習で調べたり実際に体験したりして学び、また、多くの地域の方々と触れ合う中で、御所野のよさを感じ、誇りに思う気持ちを育てている。 ・学校報や学習発表会等の学校行事を通して、学校経営の基本的考えと教育活動についてさらに具体的に知っていただくように努めた。	B	・地域の自然や教材・人材等の年間指導計画への計画的・系統的な配置や見直しにより、地域の中で学ぶ機会や体験の充実を図る。 ・学校行事や地域との合同行事、交通指導、見守り活動、防災活動等を機会として、家庭や地域社会との連携強化に努めていく。 ・PTAの内容等を工夫し家庭との連携を推進する。	・子どもを対象とした地域行事によく参加している。 ・地域には様々な店舗や施設のある利便性、豊かな自然など学びの機会が多い。地域の方の協力を得て貴重な体験を積みながら、子どもに地域のよさと感謝の気持ちを育ててほしい。 ・PTA学級懇談の出席率を上げる工夫が必要である。 ・保護者アンケートでの評価が明確になるよう、学校の努力や取組が分かるように周知する必要がある。
学校間連携	地域の幼稚園や保育園、中学校との校種間連携の推進	・校種間の連携を図り、御所野地域の子どもたちの成長を連続的に支援する協力体制を整えるように努めた。 ・小中教職員の定期的な情報交換で学習面と生活面から義務教育 9 年間を見通した指導計画の見直しと改善を行い、継続実践に努めた。	B	・指定中学校の変更に伴い、より密接な情報交換と連携を図る中で、子どもたちが希望と目標をもって進学ができるよう取り組む。 ・学習や生活に関する共通指導計画は今後も改善を図り、小中で連続性のある学校教育活動を推進する。	・今年度は学院中学校吹奏楽部の鑑賞などの取組もあり、幼稚園、保育園、中学校等の連携は十分なされていると思う。 ・進学を控えた時期に保護者のための説明会の機会があり、情報が得られて助かる。